

能楽体験

11月10日、福井県能楽特別委員会の方を招いて、6年生が能楽を体験しました。はじめに能楽の概要についてビデオを見た後、全員で能の謡いの「高砂」を講師の方に合わせて謡いました。講師の方が、「おめでたい場で謡われ曲なので、舟に乗って旅経つような希望に満ちた気持ちを表すように」と説明されますが、独特の抑揚をつけながらの声出しは難しそうでした。



「高砂」を謡う

次に、「仕舞」「大鼓」「太鼓」「狂言」「小鼓」「笛」の6つをローテーションして体験しました。「仕舞」は能の面をつけずに舞うことで、能の動きの基本を講師の方をまねながら行いました。扇を持ち、両肘を横に少しあげながらすり足で移動すると、子どもたちも能の役者のように見えてきました。



太鼓

「太鼓」のコーナーでは、太鼓をたたく音やかかけ声が響いていました。肘を伸ばしてバチを持ち、「スーハーハー」「イヤー」とかけ声とともにバチで鼓を調子よく打っていました。



仕舞

「大鼓」の体験では、指に和紙を固めた指皮をはめて素手で鼓を打ちます。鼓の表面の皮は堅いため、金属を打つような高い音が出ます。講師の方に合わせて、リズムカルに軽快な音を出していました。



小鼓

「狂言」のコーナーでは、国語で習った「柿山伏」のセリフを練習しました。講師の方が、狂言の滑稽さが伝わるように強弱をつけながら模範を示します。順番にセリフを言っていくに従い、恥ずかしさが薄れて、メリハリを付けて声に出すことができました。

この学習で、能楽を見ているだけではなく、動きやセリフ、使われている楽器を直に体験できました。子どもたちは、日本の伝統文化を知って身近に感じる事ができたでしょう。



大鼓